

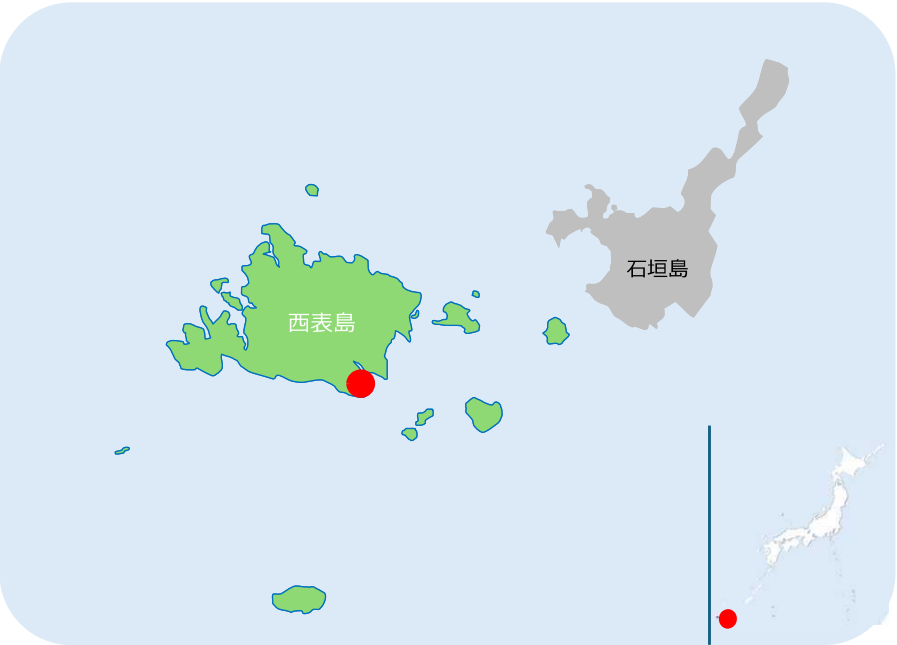
大原庁舎等整備事業 基本設計書概要

令和 8 年 3 月

建築概要

施設用途	庁舎／集会所（平時）
階数	地下1階／地上1階
構造／耐火種別	鉄筋コンクリート造／耐火構造
建築面積	1732.0㎡
延床面積	3195.5㎡
最高高さ	12.28m
駐車・駐輪台数	45台

位置



敷地条件

施設名称	沖縄県竹富町大原庁舎
住所	沖縄県竹富町字南風見ザラザキ201-1
敷地面積	約6,500㎡
都市計画区域	都市計画区域外
用途地域	都市計画区域外のため指定なし
防火地域	指定なし
容積率／建蔽率	指定なし／指定なし
高さ制限	13階／4階以下
日影制限	指定なし
他	竹富町景観計画 集落景観保存地区
接道	白浜南風見線 県道215号線 幅員7.3m～12.5m

設計条件

施設規模	【平時】町職員15人及び一般利用者最大600人 【有事】100人2週間の滞在
必要機能	事務所、集会所、特定臨時避難施設
職員人数	15名
運営形態	直営
関係法令等	建築基準法、都市計画法、消防法、沖縄県福祉のまちづくり条例、沖縄県県土保全条例、沖縄県赤土等流出防止条例、竹富町景観条例、竹富町火災条例、自然公園法、竹富町火災予防条例

建築計画

配置・外構計画

誰もが訪れやすく隣接地と一体感のある配置

歩行者動線

- ✓ 大原庁舎は世界遺産センターと一体的な敷地に建設するため、施設相互のアプローチがし易く利用者に相乗効果が生まれるように配慮した動線計画とします。
- ✓ 大原庁舎へのメインアプローチは、
- ✓ 南側の駐車場スペースから直接アプローチできる箇所に設け、ピロティ状の深い底空間を設けることで、利用者の憩いと場のなるアマハジを計画します。
- ✓ 世界遺産センター側にもアプローチを設け、集会所のホワイエに直接アクセスできる動線を計画します。一体的なイベント開催などによる相互利用を促進します。
- ✓ 北側には世界遺産センターが整備する予定であるイベント広場があり、大原庁舎と世界遺産センターの間を抜けた先にあることから、各アプローチから見える視線の抜けとアプローチを確保します。
- ✓ 施設の北側と南側には屋上広場へアクセスできる階段とスロープを設け、町民だけでなく観光客も自由にアクセスできるようにすることで、西表島の自然を見渡すことのできる展望施設としても活用できます。

車両動線計画

- ✓ 来訪者の駐車場は前面道路に接した南側に配置し、施設内での歩者分離を明確にします。
- ✓ また、世界遺産センターの駐車場とも一体的に活用できる計画とすることで、イベント時の一体活用や日々の利用者増減に対応できます。
- ✓ 施設の北側へアプローチは車両通行可能なメンテナンス動線として整備します。集会所のバックヤード機能も兼用します。

緊急車両動線計画

- ✓ 大原庁舎には救急車と消防車一台づつ駐車可能な車庫を設けます。
- ✓ 車両車庫は南側の車両動線に接する配置とし、可能な限り直線のアプローチによって前面道路にアクセスできます。
- ✓ 緊急車両の前面道路への出入口は対面ミラー設置又は出動ランプ等の対応を実施しつつ、車両の使用方法について今後決定、協議を行います。

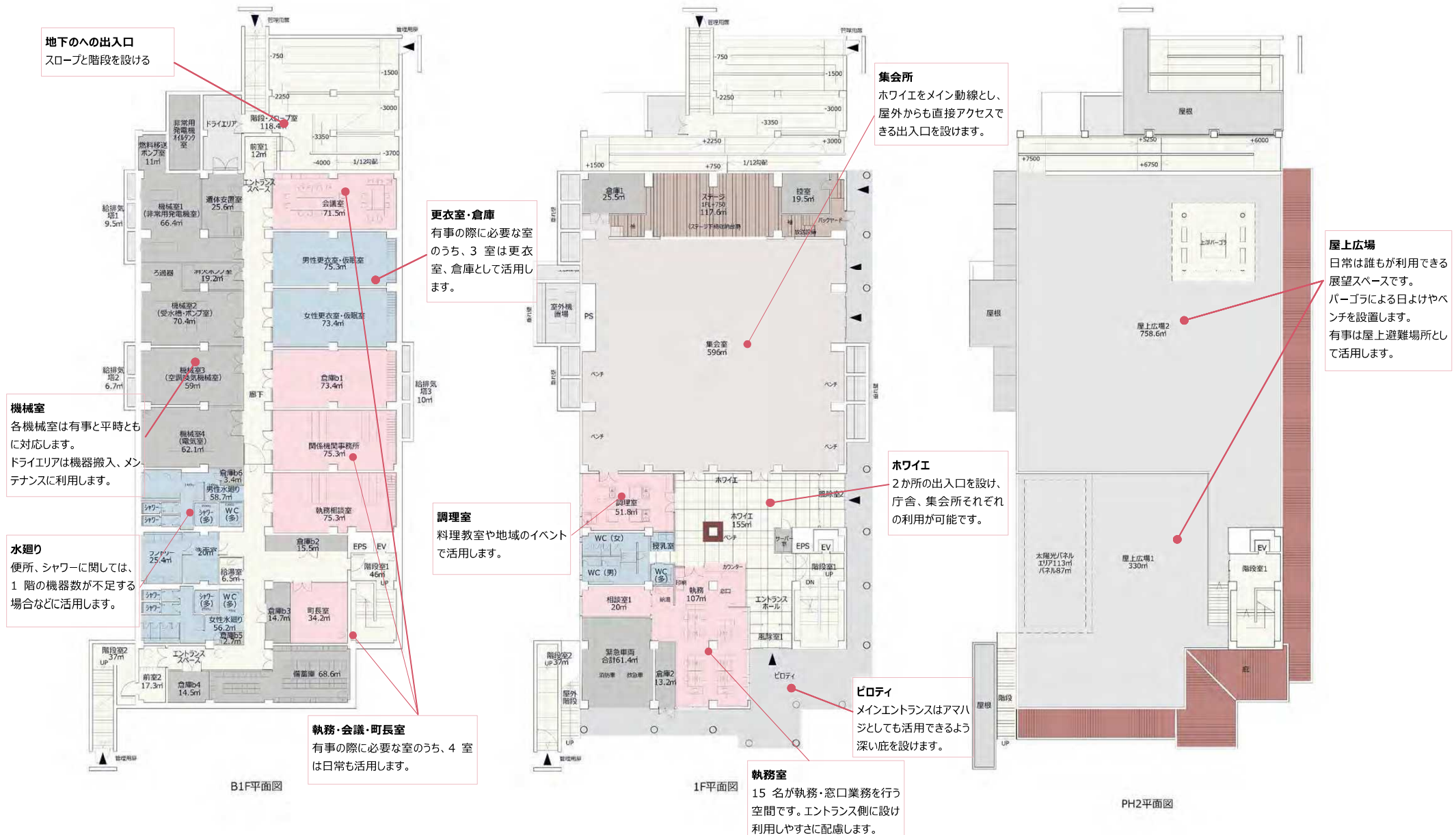
外構計画

- ✓ 敷地の既存樹木は可能な限り、存置し施工時においても最小限の枝打ちにより対応します。
- ✓ 駐車場スペースはアスファルト舗装、歩行者動線はコンクリート舗装とします。
- ✓ 世界遺産センターとの間の動線は世界遺産センターと同様の仕上計画とします。敷地出入口には時間外に車両が進入できないようボラートを設けます。
- ✓ この他の部分については、現状のままを活用することし、西側の隣地境界にはフェンスの設置を引き続き検討します。
- ✓ 雨水は本計画における現状から増加する流出量を地下ピットへ一時貯留する計画とします。一部は中水として活用します。
- ✓ 浄化槽からの排水については、敷地西側の排水路を活用し、敷地北側へ放流する計画とし、引き続き関係機関と協議を進めます。



平面計画

平時も有事も同じように利用するフェーズフリー庁舎



外観計画

素材と伝統を活かして周囲と調和を図る

敷地の周辺環境との調和

- ✓ 計画敷地は島内の主要道路である県道に接し、大原港からは歩いてアクセス可能な立地です。観光客が最初に目にする施設でもあることから、竹富町らしさをもった琉球赤瓦を使用した庇を設けます。
- ✓ 大きな庇は建物高さの圧迫感を抑え、隣接する世界遺産センターの切妻屋根との連続性を生みます。
- ✓ 日常的に利用する町民に親しまれ、長く利用される施設を目指しアマハジ空間と材料を活かした整備を行います。

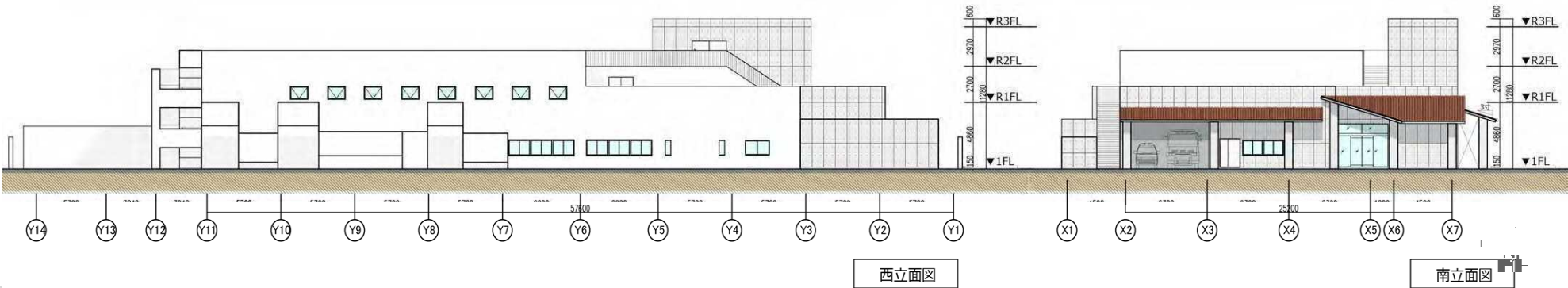
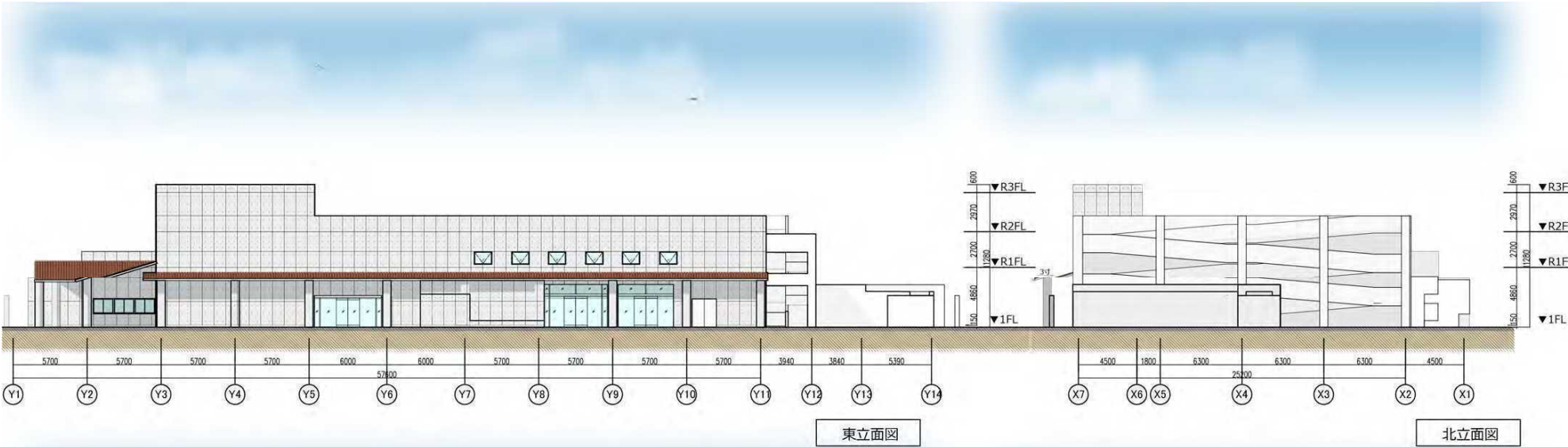
外部仕上の方針

- ✓ 大原庁舎は鉄筋コンクリート造の建物です。海沿いであることを考慮した高耐久な仕上げとすることで長く使える施設を目指します。
- ✓ 台風や強風を考慮して、開口部は最小限とし、ガラスは断熱性を考慮して複層ガラスとします。
- ✓ 外観は鉄筋コンクリート化粧打放にクリア塗装及び色付きの塗装部分、琉球赤瓦の3種類で構成します。
- ✓ 親しみやすく長く利用できる施設とするために、琉球瓦や高耐久仕上を採用しました。

南東からのイメージバース



外部仕上



使用箇所	仕上材料	使用箇所	仕上材料
外壁 1	鉄筋コンクリート化粧打放のウレタン樹脂クリア塗装	屋上広場	超速硬化ウレタン塗膜防水（歩行用）
外壁 2	鉄筋コンクリート打放のウレタン樹脂クリア塗装	手摺	溶融亜鉛メッキ仕上げ
庇	琉球赤瓦葺き	スロープ・階段	防滑性高耐候性塗床
底柱・軒天	鉄筋コンクリート化粧打放のウレタン樹脂クリア塗装	外部建具	アルミサッシ・複層ガラス

断面計画

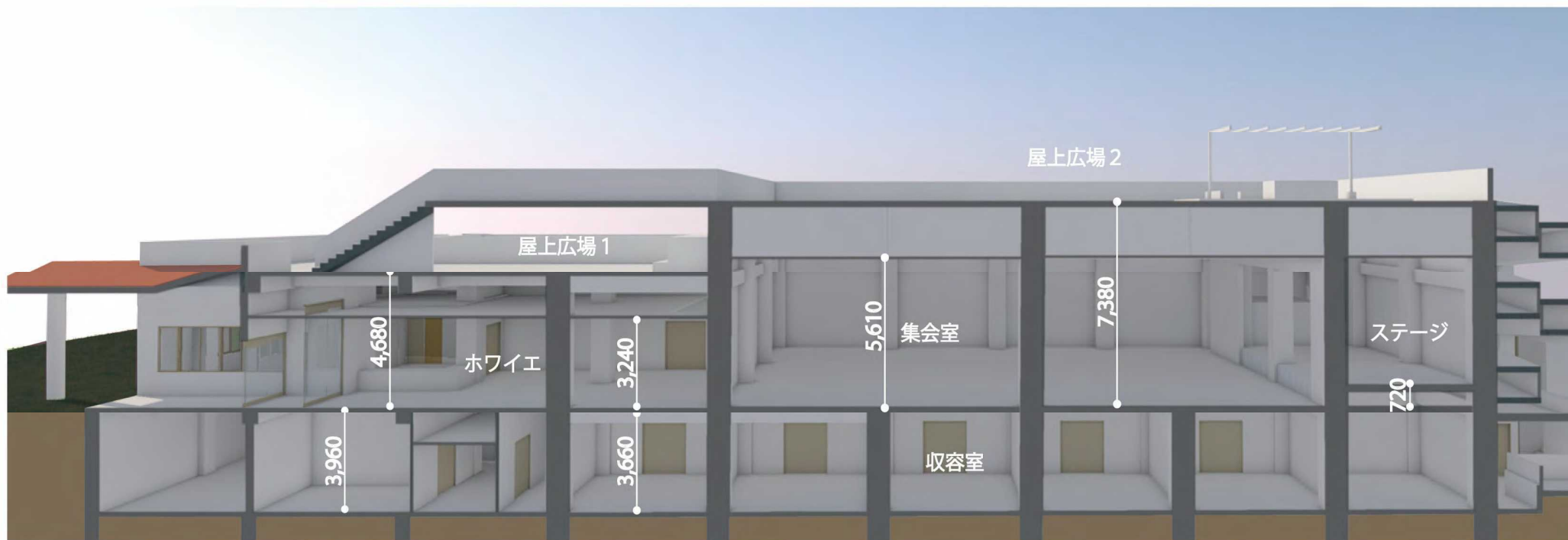
低層に抑えつつも機能に応じた高さ計画

断面計画の方針

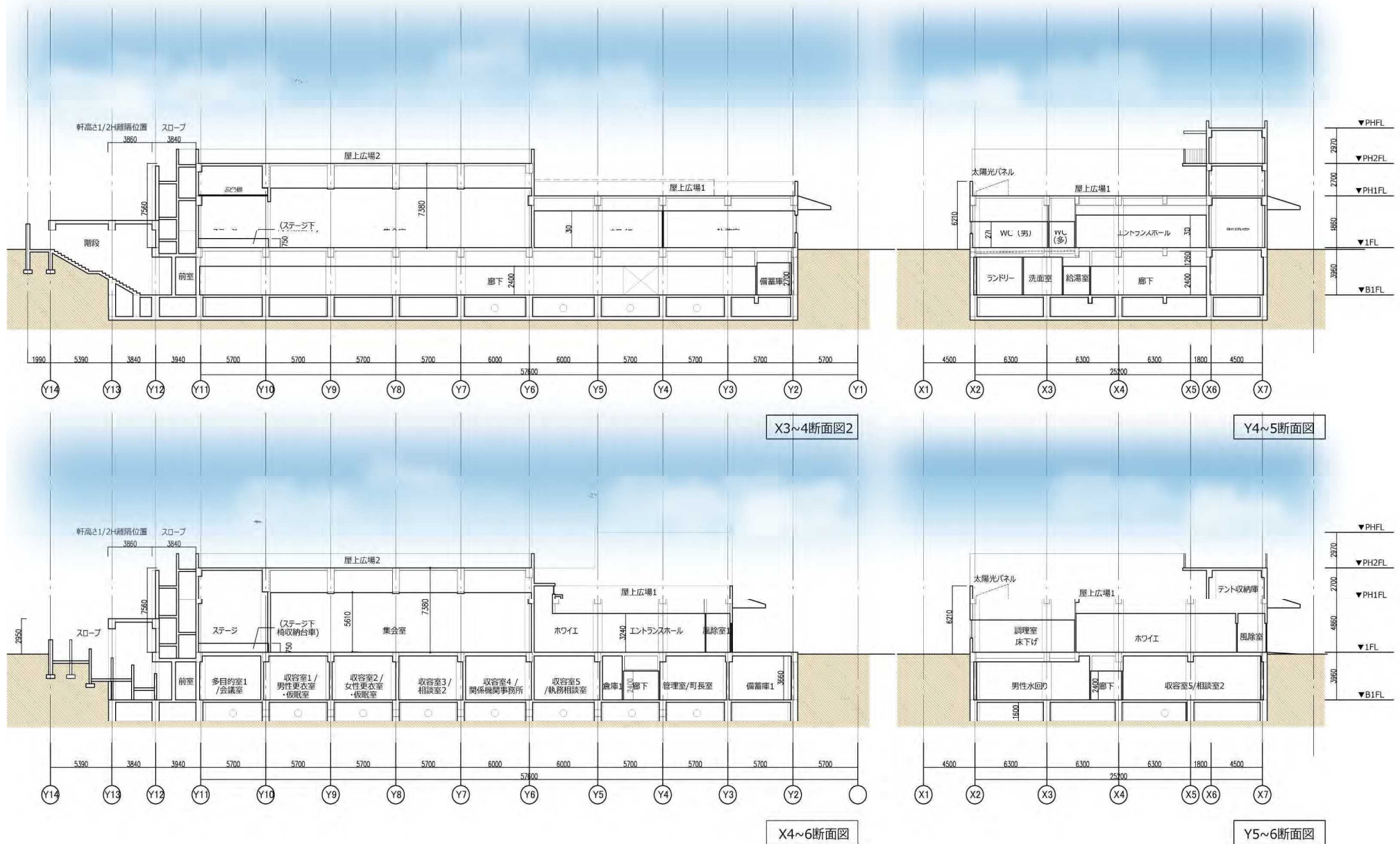
- ✓ 建物高さを抑えることで、周囲との調和を図ります。1階は用途に応じて必要な高さに押えます。執務空間は南側に配置し世界遺産センターとの建物ヴォリュームに配慮します。ヴォリュームの大きくなる集会所は見晴らしの良い北側に設けます。
- ✓ 屋根形状は陸屋根とし、広場としても活用可能なつくりとします。
- ✓ 1階は通風、自然光を取り入れ、自然換気、自然採光を確保したつくりとします。
- ✓ 執務室側の屋上広場にはハイサイドライトをもうけ、ホワイエ空間への自然の光や風を取り込み、明るい室内環境をつくります。
- ✓ 東側と南側に設けた庇は、日射を制御するとともに、小雨程度であれば自然換気ができるようにします。
- ✓ 集会所は天井を高くもうけ、主に大人数でのイベント開催を可能とします。
- ✓ 地下階は特定臨時避難施設としての十分な役割を果たせる深さ、天井高さを確保します。

高さ設定

- ✓ 断面計画においては165mmを基本モジュールとし各部の高さを設定します。
- ✓ 階高は、用途、快適性、経済性及び天井内の設備配管を考慮して、地下1階を3,960mm、1階を4,680mm、7,380mmとします。
- ✓ 1階の執務室やホワイエは天井高さ3,240mm、調理室、便所は2,700mmと設定します。
- ✓ 集会所は1FLから720mmの段差をもつステージを計画し、天井高さは5,610mmとします。
- ✓ 地下階は特定臨時避難施設であることから、廊下部分のみ構造体に緊結した天井を設け、他の室は直天井とします。



断面図



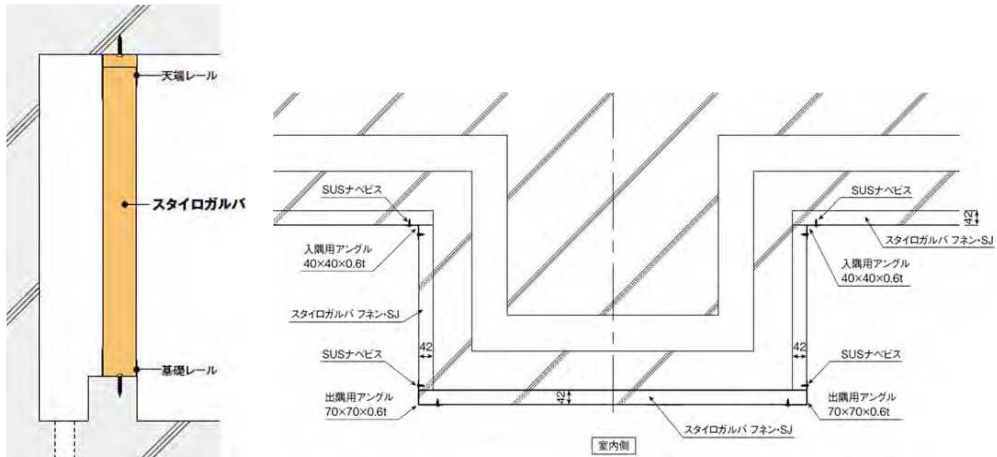
仕上計画

内部仕上の方針

- ✓ 各機能に適した材料を選定します。また、西表島の気候特性を踏まえた高耐久やメンテナンス性に配慮し、八重山諸島の立地を踏まえた、入手性、施工性、汎用性を考慮した材料を選定します。
- ✓ 地下階は天井仕上落下への配慮として、直天井を基本とした仕上げとします。廊下部分は設備インフラルートとなることから天井仕上を設けますが、天井下地を構造体に緊結するつくりとします。
- ✓ 地下階の外壁面は湧水に配慮した二重壁とし、外力による振動等にも配慮します。
- ✓ 本施設の耐震安全性の目標は、構造体Ⅰ類、建築非構造部材Ⅰ種、建築設備Ⅰ類として対応します。

階数	室名	床仕上げ	壁仕上げ	天井仕上	天井高さ	備考
B1	収容室系	ビニル床シート	せっこうボードのうえ EP 塗装 コンクリート打放のうえ EP 塗装	コンクリート打放のうえ EP 塗装	直天井	外壁面は乾式断熱二重壁とします
	機械室系	塗床	乾式断熱二重壁 コンクリート打放のうえ EP 塗装	コンクリート打放のうえ EP 塗装	直天井	同上
	廊下	ビニル床シート	乾式断熱二重壁 コンクリート打放のうえ EP 塗装	岩綿吸音板	2400	同上 天井下地は構造体に緊結することとします
	水廻り	防滑性ビニル床シート	ケイ酸カルシウム板のうえ EP 塗装 コンクリート打放のうえ EP 塗装	コンクリート打放のうえ EP 塗装	直天井	同上
1	執務室・相談室	OA フロアのうえタイルカーペット敷き	せっこうボードのうえ EP 塗装 コンクリート打放のうえ EP 塗装	岩綿吸音板	3240	
	エントランス・ホワイエ	ビニル床タイル	せっこうボードのうえ EP 塗装 コンクリート打放のうえ EP 塗装	岩綿吸音板	3240	ハイスାଇドライト設置
	水廻り・調理室	鋼製二重床 防滑性ビニル床シート	ケイ酸カルシウム板のうえ EP 塗装 コンクリート打放のうえ EP 塗装	ケイ酸カルシウム板のうえ EP 塗装	2700	
	緊急車両車庫	防滑性エポキシ樹脂系塗床	コンクリート打放のうえ DP 塗装	コンクリート打放のうえ EP 塗装	直天井	シャッター設置
	集会所	ビニル床タイル	コンクリート打放のうえ EP 塗装 有孔ボード張り	コンクリート打放のうえ EP 塗装 岩綿吸音板	5610	
	ステージ	鋼製二重床 フローリング	コンクリート打放のうえ EP 塗装	コンクリート打放のうえ EP 塗装	直天井	ぶどう棚 舞台機構設置

■ 二重壁仕様



■ 防爆扉仕様

地下階に設ける防爆扉は、コンクリート厚さ 300mm と同等以上の耐衝撃に耐えられる仕様を採用します。具体的には耐衝撃 200kN/m2 以上としつつ、各防爆扉設置個所において想定される耐衝撃を評価したうえで適切な仕様とします。

防爆扉の固定はコンクリート厚さ 300mm 以上の外壁、スラブ面に固定し、コンクリートと一体的な防爆性能を発揮できるようにします。

機能別の諸室計画

庁舎機能

執務室

- ・ 町職員が 15 名執務可能な広さを備えます。ホワイエ側にはカウンターを設け住民対応用の窓口とします。また、カウンター部分には管理用のシャッターを設け、セキュリティラインとします。
- ・ また、室内には給湯、印刷用のエリアを設けます。

相談室

- ・ 相談室は主に保健師による執務と住民相談の場です。
- ・ 現状は執務室内を通り抜ける計画ですが、屋外からの動線を設けることも可能としています。

調理室

- ・ 3 口の IH コンロ、シンクを設け、作業台は可動式とし使用内容に応じて移動できる作りとします。
- ・ 1 か所電気式の回転窯を設け、大人数用の調理に対応します。

ホワイエ

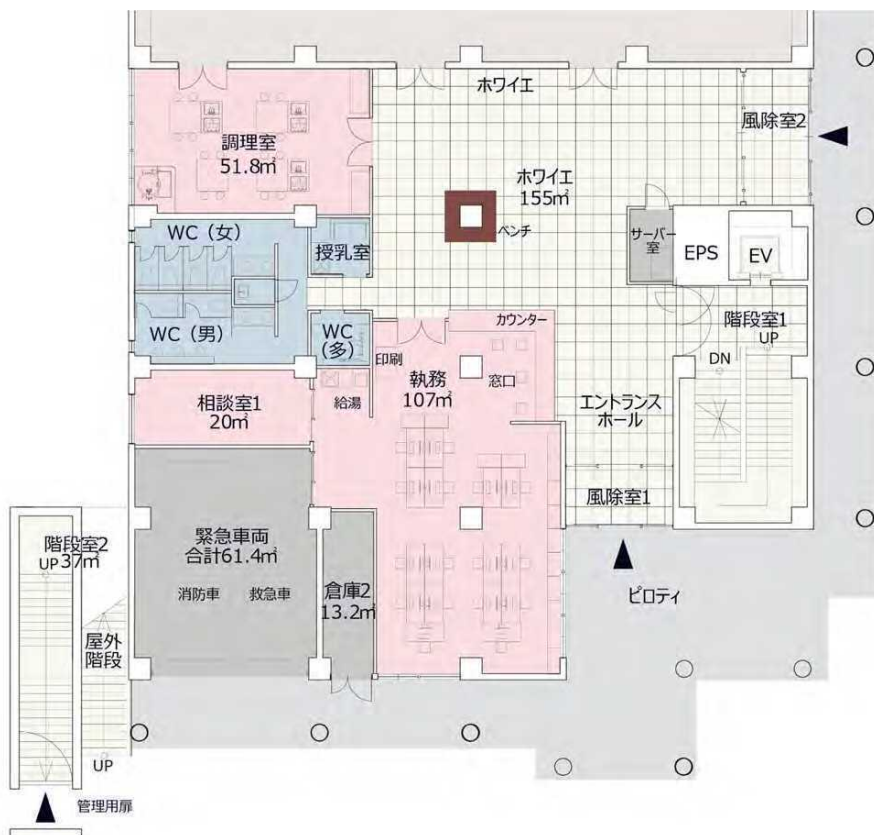
- ・ ピロティからのメインエントランスと、世界遺産センター側からのサブエントランスを設けます。
- ・ ホワイエは集会所利用の滞留や日常的な利用における憩いの場として計画します。

緊急車両

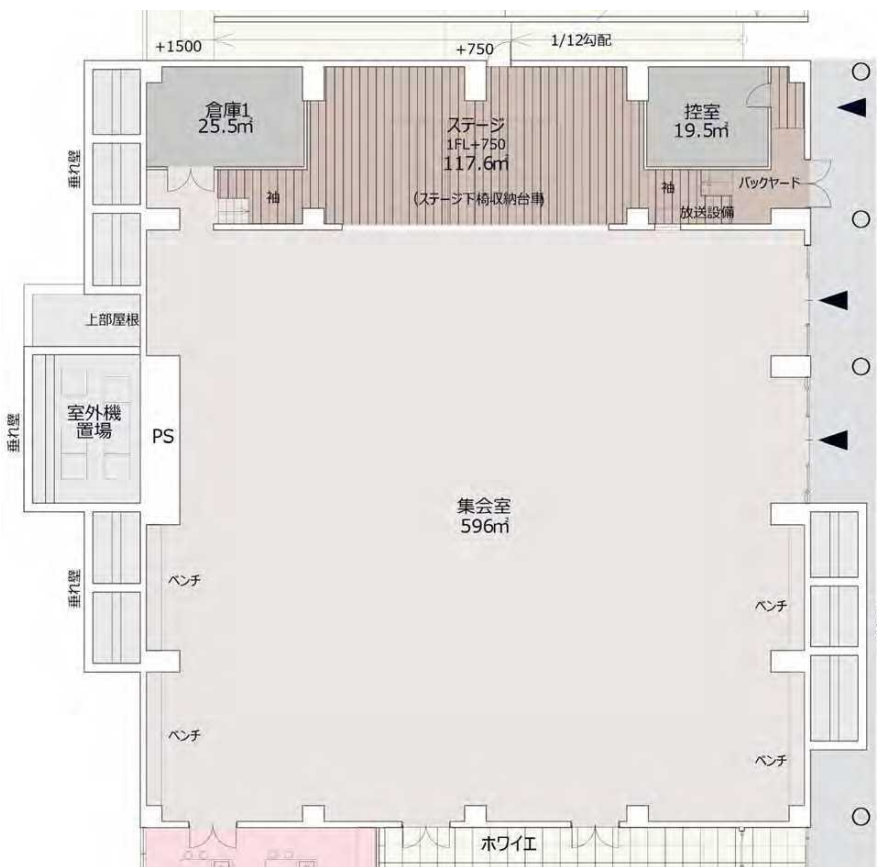
- ・ 小型の消防車、救急車を 1 台ずつ配置します。
- ・ 緊急時はすぐに対応できるように、駐車場に面した配置としています。

水廻り

- ・ 主に日常的な人員に対する十分な基数を確保します。イベント時には地下階も活用する計画です。
- ・ また、授乳室、多機能便所を設け、ユニバーサルデザインに配慮します。



4.2. 集会所機能



集会所

- ・ 町内で実施しているイベントや成人式などにも対応できるよう十分な広さとステージを設けます。
- ・ 世界遺産センターとも連携しやすいよう東側の出入口を設け屋外と一体的な活用が可能です。
- ・ また、背面には移動観覧席を引き続き検討します。

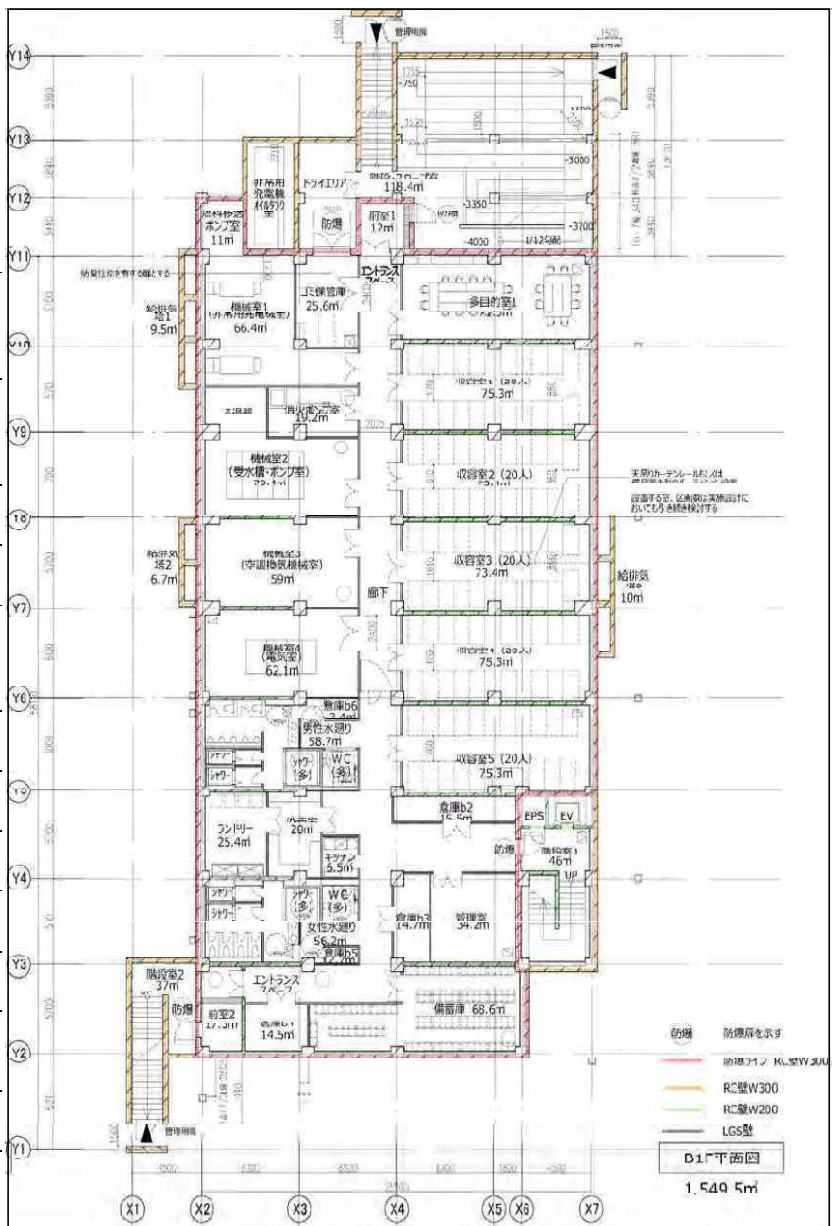
ステージ

- ・ ステージはアリーナ部分から 750mm 上がった床レベルとし、床下には収納台車を計画します。
- ・ また、照明、緞帳を設けた舞台機構を整備します。

特定臨時避難施設機能

特定臨時避難施設機能に関する計画については、特定臨時避難施設の技術ガイドライン（第2版）に則した設計内容としています。
ここでは、主な適合状況について示します。

立地計画	- 特定臨時避難施設は大原庁舎の地下階に設置します。 - 避難者数は100名を想定し、収容室は5室、2週間の生活が可能な物品を収納する備蓄倉庫を設けます。 - 地下階には建物軒高の1/2以上離れた位置に、屋外から直接アクセスできる出入口を設けます。 - 地下へのスロープは同様の範囲に、屋根を設けます。 - 危険物や可燃物からの本施設の外壁面までの距離として、敷地南側のガソリンスタンドから約55m、隣接する世界遺産センターのプロパンガス置場から約42mを確保しています。 - 地下外壁が屋外に接するドライエリアについては、土壌等で埋める対応とし、メンテナンス時など一時的な利用の際は土壌を搬出して対応します。室内への扉は防爆扉とします。 - 本敷地は竹富町版ハザードマップにおいて、敷地中心部は津波、浸水、高潮浸水、土砂災害の警戒区域に該当しません。敷地北側の一部が津波災害警戒、高潮浸水想定区域にかかりますが、建物の範囲外です。
	- 避難場所として、20名用5室、計100名用、約360㎡（一人当たり3.6㎡）を用意します。 - 有事の際に使用する簡易ベッド間の通路は1500mm以上の幅を確保し、車いす利用者に配慮します。 - 簡易ベッドの収納は外壁面の柱間に納め、振動等で倒れないようワイヤー等により配置します。 - 外壁面は二重壁とし、壁面からの湧水、結露に対応します。
収容スペース	1か所の出入りが困難になった場合でも施設内に閉じ込められることが無いよう、施設の離れた位置で2か所設けます。また、防爆扉はP13に示す仕様を満足する設計とします。出入口口はコンクリートの床根を設けます。 - 出入口の幅は900mm以上を確保し、避難等に支障が無いようにします。 - スロープやバリアフリー動線は段差が無く1/12以下の勾配、幅1500mmによる計画とします。
	- 主となる備蓄倉庫68㎡を設けます。収納する備蓄品については、次ページに示すリストのとおりです。 - 適切な保管のため除湿設備を設け、主廊下に面した配置とします。
出入口	男性用は小便器5基、大便器2基、女性用は大便器4基設けます。ジェンダーレスに配慮し多目的便所を男性側、女性側それぞれに1基設けます。また、断水を想定し使い捨てトイレを備蓄倉庫に用意します。
	- 本施設は平時において、特殊建築物、延べ面積1000㎡を超えることから、地下階にはスプリンクラー設備を設けます。 - また、すべての室は無窓となることから、居室は告示1436号三号へ（2）による対応とします。非居室は告示1436号三号へ（1）による対応とします。 - 防爆扉は平時の際に常時開放として運用します。
備蓄倉庫	- 男女3か所（1か所は車いす対応）づつとし、ジェンダーレスに対しては運用時間等によって配慮します。 - 迎用上100名の方が利用するためには、1名20分として、約171回転、340分、5時間40分となる見込みです。
	ごみの搬出に配慮し、出入口に隣接した配置とします。
トイレ	火気の使用を避けるためIHキッチンを設けます。
	選択や乾燥のための室を設けます。乾燥機は電気式とします。
廊下、階段等の避難施設等	- 外部からの出入口から廊下へ続く経路にエントランススペースを設けます。 - エントランススペースでは、避難時の名簿確認や手指の消毒などを実施する想定です。
	- 地下階にあることから、外壁面には二重壁による湧水対策を行います。出入口に関しては、排水側溝を設け外部からの雨水進入を防ぎます。排水については地下ピットを活用し平時はポンプアップによる排水を行います。 - 有事の際はポンプアップを行わず、地下ピットに貯留することが可能な計画です。
シャワー室	- 外壁面は二重壁による防湿性を確保し、断熱性能を持った材料を採用することで、地階における湿気・結露対策とします。 - 床スラブはピット側に断熱層を設け、床壁による断熱性を確保します。
	- 天井は脱落防止として、原則直天井とします。廊下部分はインフラルートとなることから、天井を設けますが、構造体に緊結する造りとします。 - その他の非構造部材は耐震安全性の目標におけるA類とします。
廊下、階段等の避難施設等	
シャワー室	
更衣室	
洗面所	
トイレ	
キッチン	
ランドリールーム	
エントランススペース	
湧水対策	
構造体	
非構造部材	



■ 備蓄倉庫の想定(100 名が 14 日間に必要な備蓄品目と備蓄量)

項目	品目	原単位	備蓄量	1 箱当りの概算量	概算箱数	備考
飲料水	ペットボトル 500ml	6 本/人・日	8,400 本	48 本/箱	175 箱	重量棚
生活水	ペットボトル 2L	3 本/人・日	4,200 本	48 本/箱	88 箱	重量棚
保存食等	アルファ米	2 食/人・日	2,800 袋	50 袋/箱	56 箱	重量棚
	災害備蓄用缶詰パン	1 食/人・日	1,400 缶	24 缶/箱	59 箱	
	クラッカー・ビスケット	1 袋/人・日	1,400 袋	35 袋/箱	40 箱	
	粉ミルク又は液体ミルク	5 回/人・日	210 本	24 本/箱	9 箱	避難者の 3%程度を想定
	離乳食	2 回/人・日	84 食	160 食/箱	1 箱	避難者の 3%程度を想定
	哺乳瓶	-	3 本		1 箱	避難者の 3%程度を想定
	哺乳消毒ケース・消毒溶液	-	1 式		1 箱	
	アルミ蒸着保温シート	1	100 枚	198 枚/箱	1 箱	
	毛布	1	100 枚	10 枚/箱	10 箱	
	マット	1	100 枚	10 枚/箱	10 箱	
	間仕切	0.5	50 式	式/箱	箱	別途倉庫にて計画
	使い捨てカイロ	1	1,400 枚	240 枚/箱	6 箱	
	トイレットペーパー	0.3	420 ロール	12 ロール/箱	35 箱	
	ウェットティッシュ	10	14,000 枚	2000 枚/箱	7 箱	
	手指消毒剤(500ml)	0.03	42 本	16 本/箱	3 箱	
	大人用紙おむつ	2	84 枚	64 枚/箱	2 箱	避難者の 3%程度を想定
	子ども用紙おむつ	10	420 枚	302 枚/箱	2 箱	避難者の 3%程度を想定
	生理用品	8	1,680 枚	430 枚/箱	4 箱	避難者の 15%程度を想定
	マスク	2	2,800 枚	4000 枚/箱	1 箱	
	救急医療薬品類	0.05	5 箱		5 箱	
	歯磨きシート	0.5 1 枚/人・日	700 枚	400 枚/箱	2 箱	
	からだふき	0.5 1 枚/人・日	700 枚	400 枚/箱	2 箱	
	おしりふき	0.5	2 箱		2 箱	避難者の 3%程度を想定
	ドライシャンプー	0.05	70 本	16 本/箱	5 箱	
	衣類用抗菌消臭スプレー	0.05	70 本	16 本/箱	5 箱	
	全身ケアソープ (4 L)	0.0015 1 回/人・日	2 本	11 本/箱	1 箱	
	使い捨てペーパー下着	1 1 枚/人・日	1,400 枚	300 枚/箱	5 箱	
	使い捨てトイレ	2 2 個/人・日	2,800 個	150 枚/箱	19 箱	
	災害救助用工具セット	1 式			1 箱	
	充電電池、懐中電灯、ラジオ等	1 式			1 箱	
	折り畳み式ストレッチャー	1 式			1 箱	
合計					559.5 箱	
長さ換算		w40cm×5 段⇒12.5 箱/m			44.76 m	
備蓄倉庫面積換算		棚 d45cm+通路 90cm/2+a⇒12.5 箱/m ²			44.76 m ²	

■「人道憲章と人道対応に関する国際的な最低基準」（スフィア基準）に基づく生活環境計画

特定臨時避難施設として、有事の際、一定期間、宿泊等に使用することに対応した施設の生活環境であるために、スフィア基準を参考に計画しています。
主に給水、衛生および衛生促進の章から参考とした基準と対応状況を示します。

章	方針等	詳細な基準	対応状況
衛生促進基準 1,2： 衛生用品の特定、入手および使用	影響を受けた人びとが、衛生、健康、尊厳、ウェルビーイングを保障するために適切な衛生用品を入手および使用することができる。		備蓄品として準備することに対応します。
給水基準 2.	水の味がよく、飲用、調理用、個人や家庭の衛生保持に十分な水質で、健康に危険を及ぼすことがない		飲料水はペットボトルによる備蓄で対応し、生活水は受水槽およびペットボトルにて十分な量を確保します。
し尿管理基準 3.2： トイレへのアクセスと使用	人びとは十分な数の、適切かつ受け入れられるトイレを安心して安全にいつでもすぐに使用することができる。	共用トイレの割合 • 20 人につき、最低 1 つ 住居と共用トイレの間の距離 • 最大 50 メートル 内側から施錠でき、適切な照明が付いているトイレの割合 アクセスのしやすさ；障がい者を含むすべての人びとの権利を尊重し、安全に衛生施設にアクセスできる技術的選択をする	男性用は小便器 5 基、大便器 2 基、女性用は大便器 4 基設けます。ジェンダーレスに配慮し多目的便所を男性側、女性側それぞれに 1 基設けます。また、断水を想定し使い捨てトイレを備蓄倉庫に用意します。 最も距離がある収容室 1 から多目的便所まで約 35mです。 すべてのブースは施錠でき、照明を設けます。 地下階は段差の無い設えとします。
乳幼児の食事基準 4.	政策指針と調整は、安全で適時適切な乳幼児の食事を可能にする。		一定量のミルク、離乳食を備蓄品として想定しています。

屋上広場機能

屋上広場は災害時の高台避難場所を担います。平時は誰もが訪れることのできる広場として活用します。

屋上広場 2

- ・ 屋上広場 2 では地上から約 8.5m の目線から仲間川天然保護区域を望むことのできるスポットとなります。
- ・ バーゴラによる日よけを設けることで、夏場の利用に配慮します。
- ・ 災害時は一時避難場所として活用します。大原地区の住民や施設への来訪者が十分集まることのできる広さです。
- ・ アクセスは階段とスロープを設け、車いす利用者や身体に不調のある方に配慮します。室内からはエレベーターでもアクセスできます。

屋上広場 1

- ・ 屋上広場 1 は執務室部分の屋上に設け、メインアプローチの南側から直接アクセス可能です。
- ・ また、太陽光パネルを設置することで再生可能エネルギーの活用を図ります。

庇

- ・ 庇は歩行者動線となる範囲、及び出入口に設けます。
- ・ 赤瓦を採用することで周囲との調和を図ります。



西表島の景観（竹富町景観計画より）



PH2平面図

平時と有事の使い分け

本施設では、平時の際にも地下階を活用します。
 主に執務室や町長室、会議室、更衣室です。日常的に使用することで、有事の際にも円滑に避難することができます。
 日常時の家具は、有事の際に1階もしくは施設外に搬出し、収容室などとしての利用状況を整えます。また有事の際の備品はすべて地下階の倉庫に保管します。

平時の利用



B1F平面図

有事の利用



B1F平面図

会議室

多目的室

男性更衣室・仮眠室

收容室 1

女性更衣室・仮眠室

收容室 2

倉庫

收容室 3

関係機関事務所

收容室 4

執務相談室

收容室 5

保管庫

遗体安置室

町長室

管理室

給湯室

キッチン